

## 編 集 後 記

これまで司書課担当教員が司書課程年報の編集に携わってきたが、今号から、司書課程受講学生の3年次生に年報編集委員をお願いをした。今号はまだ従来の殻を引きずったままの年報で前号と大差ない紙面であるが、次号から大きく変わることが期待される。

年報は、卒業年次の司書課程受講学生の手稿からなる。短大生の部は2年次学生が最後の試験期間に原稿の提出をして忙しい思いをしている。文学部は4年次の学生が提出するのが本来であるが、4年次は司書課程科目の受講を終了しており、卒論、就職と年報原稿どころではない時期であるので、3年次生の12月～1月に原稿を提出して、掲載は翌春の卒業時という形式をとっている。従って、新編集委員の手腕は次号から発揮されることになる。

新編集委員が策定した新編集方針は以下のとおりである。

- ① 求められた原稿を提出したら、それで終わり。という年報ではなく、卒業後もときには思い出に読み返して、在学当時を回想できる年報とする。
- ② 表現形式は各人の自由にして、自分流で表現する。
- ③ 従来の論文調の記事でなく、自分の言葉で自分の思うことを表現する。
- ④ これまでの読む年報から見る・読む年報に変容する。

### ◆ 編集委員

---

これは私たち五人に与えられた役名である。響きがよく、偉そうなので私は大層満足した。しかし、ふたを開けてみると、週に一度、それも一時間程度集まるだけで、ほとんど仕事は先生方にまかせっきりという形になってしまった。(すみません。)

今までに何冊もの出版物を手にしてきたが、一冊にこれほどの時間と労力がかかる、ということを知らず、今回はよい勉強になった。だから、多くの人々の努力の結晶であるこの冊子に、何度も目を通してもらえるとうれしいと思う。  
(国文学科 倉山香苗)

編集委員会が設置されたのは、私達が初めてだったので、何をどうすればいいのかわからない部分も多くあったが、話し合い重ねることにより、私達の意見も反映された一冊に仕上がったように思う。編集の仕事に携わることで、一冊の本が刊行されるまでに、関係者の苦勞が垣間見えたように感じた。一週間一回集まるだけであるが、楽しい時間をもつことができました。  
(国文学科 立花志保)

突然友人から持ちかけられた一つの仕事。彼女による見えないオーラが私に断る事を拒否させた。そんなきっかけから携わる様になったこのこの編集委員の仕事。きちんと任務を全うできたのかは謎であるが、司書課程の先生方と顔見知りになり和やかな雰囲気を進める話し合いがとても楽しく意義深いものであった。

次号編集委員の方、よりすばらしい年報ができることを期待しています。  
(史学科 酒井千枝)

初めて編集という仕事に参加しました。といってもたいして役に立ちませんでしたが、多少なりとも自分のかわったものが形になって残るといのはうれしいことです。  
(史学科 平山弥生)

図書館閉館間際のことでした。私が友人といるところに先生から編集委員の話を持ちかけられたのは。友人はいろいろな理由を述べて編集委員の話を手重に断ったのですが、私は元来編集・出版の仕事に興味を持ち、将来その方向の仕事に就きたい思っているので快く引き受けさせていただきました。この編集の仕事を先々、役に立てることが私の望みです。

この『司書課程年報』を卒業後、皆様が思い出として手に取って頂ければ幸いです。

(史学科 古本 希)

---

---

司書課程年報

No. 3

2000年3月10日発行

編集発行

別府大学・別府大学短期大学部司書課程

〒874-8501 大分県別府市北石垣82

電話 0977-66-9635

印刷所

(有)つちや印刷

〒874-0022 大分県別府市亀川東町4-20

電話 0977-66-3676

---

---